

低濃度 P C B 汚染物対策検討委員会について（案）

平成 1 5 年 1 1 月 2 6 日
経済産業省産業技術環境局環境指導室
環境省廃棄物・リサイクル対策部産業廃棄物課

1. 趣 旨

平成 1 4 年 7 月、P C B を使用していないとする変圧器等の重電機器の中に、低濃度の P C B に汚染された絶縁油を含むものが存在することが明らかになり、（社）日本電機工業会等が関係業界の協力を得ながらその原因究明等の調査を行ってきたが、どの段階で絶縁油に P C B が混入したかについては特定できなかった。

P C B は重電機器内部に密閉された状態にあり、直ちに生活環境への影響が懸念されるものではないが、このような低濃度 P C B 汚染重電機器については、その実態を踏まえ P C B 廃棄物として確実かつ適正に対応されなければならない。このため、電気絶縁油のライフサイクルに係わるすべての関係者の協力を得て追加調査を行い、原因究明を図るとともに、低濃度 P C B 汚染重電機器に対する特定や対応の基本的方向を検討する必要がある。

このため、専門家等からなる「低濃度 P C B 汚染物対策検討委員会」を開催し、早急に低濃度 P C B 汚染重電機器の原因究明を進めるとともに、このような重電機器を中心とした低濃度 P C B 汚染物の処理の基本的方向等を検討することとする。

2. 低濃度 P C B 汚染物対策検討委員会について**(1) 委員会の開催**

経済産業省及び環境省との契約を請け、これまで P C B 廃棄物に関する種々の調査研究の経験を有する（財）産業廃棄物処理事業振興財団が事務局となり、委員会を開催する。

(2) 委員会の構成（ 5 0 音順）

酒井 伸一	国立環境研究所循環型社会形成推進・廃棄物研究センター長
崎田 裕子	ジャーナリスト、環境カウンセラー
高橋 秀夫	（社）日本経済団体連合会環境・技術本部長
竹内 憲司	神戸大学大学院経済学研究科助教授
永田 勝也	早稲田大学理工学部機械工学科教授
宮崎 章	産業技術総合研究所つくばセンター西事業所管理監

森田 昌敏 国立環境研究所地域環境研究グループ統括研究官
嵐 一夫 兵庫県健康生活部環境局環境整備課長

(3) 検討事項

低濃度 P C B 汚染重電機器の原因究明等

(社)日本電機工業会の調査結果の検証、電気絶縁油のライフサイクルの関係者に対するヒアリング調査等により、原因究明を行うとともに、低濃度 P C B 汚染重電機器の特定やその処理に必要な基礎的情報を収集する。

低濃度 P C B 汚染物の処理の基本的方向性

安全性の確保を前提としつつ、低濃度 P C B 汚染物の特性、整備中の拠点的広域処理施設との関係、事業の効率性や早期実現性等を踏まえて、簡易な測定方法の策定等低濃度 P C B 汚染物に対する当面必要な対応について検討するとともに、低濃度 P C B 汚染物の特性に応じた処理方法等処理の基本的方向についての検討を深める。

(4) 検討スケジュール

平成 15 年度から平成 16 年度の初期にかけて原因究明及び機器の特定に関する調査を行い、当面必要な対応についてとりまとめを行う。その後、さらに検討を進め、平成 16 年度中を目途に処理の基本的方向についての提言をいただく。

(5) 製造者等の協力

検討事項の速やかな検討を進め、もって P C B 廃棄物の確実かつ適正な処理が円滑に推進されるよう、低濃度 P C B に汚染された変圧器等の製造者、電気絶縁油の製造者等の関係者に必要な協力を求めるものとする。